

2024(令和6)年は西区制80周年
知ってる?
西区のむかし

西区文化協会は1981(昭和56)年の創立。創作・芸能・茶道部門に分かれて活動しており、誰でも加入できます。「にしぶんか」は創立から5年後に発刊されました。西区に密着した文化と歴史、地域に隠された趣あるエピソードを交えて、温故知新を語り継ぐ広報誌です。地域振興課(区役所4階48番窓口)でお渡ししています。



2024(令和6)年に西区は80周年を迎えます。これを記念して、西区文化協会が発行している広報誌「にしぶんか」から、これまでの西区の歴史をひも解いていきます。ぜひ西区のむかしに思いをはせてみてください。

第7回 西区の誕生～みなとみらいの開発..... にしぶんか No.28 から

昔は行政区画は警察署が単位でした。最初に神奈川署、その区域が浅間町から今の興福寺まで、あとの区域が平沼から岡野、戸部一帯は戸部署の管轄で、実際に生活している住人には不便でした。そこで新しく「戸部区」を設置して欲しいと住民が要望しましたが一度は却下されました。戦争が激しくなり、隣組同士が主体となっている戦時下、命令先が二つの署に分かれていて不便という事で昭和19年4月に南区に続いて西区が独立しました。



ドックヤードガーデン(旧第2号船渠)

戦後に移り、「みなとみらい」ができたいきさつですが、ドックを金沢区の埋め立て区域に移した時、その跡地を横浜市が買い取り、接収で遅れた都市再開発がスタートしました。都市部の再開発で金沢等の海岸を埋め立て、そこに市内にある工場を移転させる。その跡地が今のみなとみらい地区です。交通渋滞を緩和するためにベイブリッジの建設等、六大事業を興しました。みなとみらいが整備されて「横浜博覧会」が開かれました。

日本で石積みのドックというのはここにしかなく、ランドマークタワーができたとき、ドックヤードガーデンとして生まれ変わり国の重要文化財になりました。「みなとみらい」がこのような形になるとは思いませんでした。まさに、西区は温故知新で古いものと新しいものがうまく共存しています。